

<p>● 本県には、平成29年4月1日現在、総合周産期母子医療センターが2箇所、地域周産期母子医療センターが8箇所あります。地域周産期母子医療センターは各医療圏に1箇所以上あり、地域の周産期医療の中核を担っています。</p> <p>● 分娩取扱い医療施設が減少しており、取り扱う分娩数を制限している医療施設もあります。</p> <p>● 施設別では、診療所の数が減少しており、周産期母子医療センターや病院での分娩数が増加傾向にあります。</p> <hr/> <p>【図5-2-9-12】 _____分娩取扱医療機関数 出典：平成29年5月 県医療政策課調</p> <p>【図5-2-9-13】 医療機関別分娩数 出典：「宮城県周産期医療機能調査」（県医療政策課）</p> <p>（3）宮城県周産期医療システム</p> <p>● 各地域において、妊娠、出産から新生児に至る専門的な医療を効果的に提供するため、東北大学病院と仙台赤十字病院を総合周産期母子医療センターに指定し、各地域の地域周産期母子医療センター等との連携を図り、周産期医療体制の整備を進めています。（図5-2-9-15～16 _____）</p> <p>（4）周産期救急搬送体制</p>	<hr/> <p>● 産科・産婦人科を標ぼうしている病院・診療所の数は横ばいで推移していますが、妊婦健診を実施している医療施設、分娩を行っている医療施設は、ともに減少しており、里帰り分娩等を制限している医療施設もあります。また、助産師が看護業務に携わること等で、本来の専門性を発揮できない状況も見受けられます。</p> <p>● 妊産婦、乳児をめぐる問題への対応については、母子保健関係機関との連携について周産期医療機関にも社会的要請が高まっています。</p> <p>【図5-2-9-5】 地域毎の分娩取扱医療機関数 出典：平成24年 _____医療整備課調</p> <hr/> <p>（3）宮城県周産期医療システム</p> <p>● 各地域において、妊娠、出産から新生児に至る専門的な医療を効果的に提供するため、 _____仙台赤十字病院を総合周産期母子医療センターに指定し、各地域の地域周産期母子医療センター等との連携を図り、周産期医療体制の整備を進めています。（図5-2-9-7、5-2-9-8）</p> <p>（4）周産期救急搬送体制</p>	<p>医療機関別分娩数を追記</p> <p>東北大学病院平成25年9月10日総合周産期母子医療センター指定</p>
--	---	---

<p>● <u>仙台地域では、産科セミオープンシステムを利用する妊婦の情報を ICT によるネットワークで共有する、センドードネットシステムの運用が始まっています。</u></p>	<p>● <u>現在、仙台、また、仙台をモデルケースとして石巻地域や大崎地域など、県北地域でもそれぞれの地域の実情に合った産科セミオープンシステムを構築し、推進しています。（図 5-2-9-9～5-2-9-12）</u></p>	<p>産科のない地域（県北地域）は助産師外来ではなく、産科セミオープンで対応しているため削除</p>
<p>（6）新生児医療の状況</p> <p>● <u>本県のNICUについては、平成29年4月現在で72床ありますが、医師や看護師の人員配置や設備などの施設基準を満たしている診療報酬加算対象の病床は51床であり、そのほとんどが仙台医療圏に集中し、地域偏在が課題となっています。</u> <u>（図 5-2-9-16）</u></p> <p>● <u>国の指針では、都道府県のNICU病床数の目標は、出生1万人対25床から30床であり。本県の出生数（平成28年19,126人）をもとに換算すると48床から58床となります。</u></p> <p>● <u>また、重度心身障害児の受け入れを行う入所施設は満床状態が続いており、慢性重症呼吸不全などの児童が他施設に移行することが出来ず、効率的な病床運営が困難となっている事例も発生しています。</u></p>	<p>（6）助産師外来の連携体制</p> <p>● <u>周産期医療の重点化・集約化を図る中で、産科のない地域については、助産師外来を設置し、妊婦健診を行っています。現在、7医療機関で助産師外来が設置されています。（図 5-2-9-7、表 5-2-9-3）</u></p> <p>（7）新生児医療の状況</p> <p>● <u>国の整備指針によると、都道府県のNICU病床数の目標は、出生1万人対25床から30床となっています。本県の出生数（平成22年19,126人）をもとに換算すると48床から58床となります。</u></p> <p>● <u>本県のNICUについては、平成24年4月現在で68床ありますが、医師や看護師の人員配置や設備などの施設基準を満たしている診療報酬加算対象の病床だけで見ると42床で、目標とする病床数を下回る状況にあります。施設面では充足している状況ではあるものの、人員配置等機能面でカバーできていない状況です。（図 5-2-9-13）</u></p> <p>● <u>また、重度心身障害児の受け入れ体制が整っていないために、慢性重症呼吸不全などの児童が他施設に移行することが出来ず、効率的な病床運営が困難となっていること等により、他県への搬送も発生しています。</u></p>	<p>掲載順番を変更</p>

<p>29年4月現在)</p> <p>【図5-2-9-16】総合・地域周産期母子医療センター施設整備状況 出典：「宮城県周産期医療機能調査」（県医療政策課）</p> <p>【表5-2-9-4】宮城県内の分娩を行っている施設（平成29年5月現在。分娩取扱い休止医療機関を除く） 出典：県医療政策課調</p> <p>【図5-2-9-17】仙台産科セミオープンシステム 【図5-2-9-18】石巻産科セミオープンシステム 【図5-2-9-19】気仙沼産科連携体制 【図5-2-9-20】_____県北産科セミオープンシステムを含めた連携体制 【図5-2-9-21】仙南産科セミオープンシステムを含めた連携体制 【図5-2-9-22】妊産婦のメンタルヘルスケア連携体制</p> <hr/> <p>施策の方向</p> <hr/> <p>1 周産期医療の機能分担及び連携による医療提供体制の維持・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各地域の周産期母子医療センターを拠点とし、_____産科セミオープンシステム等によって地域の周産期医療機関との連携を図り、安心して子どもを生むことのできる体制の維持・充実を図ります。 ● 特に仙台以外の医療圏においては、それぞれの地域の实情に 	<p>24年4月現在)</p> <hr/> <p>_____</p> <hr/> <p>【表5-2-9-4】宮城県内の分娩を行っている施設（平成24年4月現在_____）</p> <hr/> <p>【図5-2-9-9】仙台産科セミオープンシステム 【図5-2-9-10】石巻産科セミオープンシステム 【図5-2-9-11】気仙沼産科セミオープンシステム 【図5-2-9-12】助産師外来の連携を含めた県北産科セミオープンシステム_____</p> <hr/> <p>_____</p> <hr/> <p>【図5-2-9-13】新生児医療施設整備状況 出典：平成25年1月 医療整備課調査</p> <p>施策の方向</p> <hr/> <p>平成25年3月に策定された宮城県周産期医療体制整備計画（平成25年度～平成29年度）に基づき、周産期医療体制の整備を推進します。</p> <p>1 周産期医療_機能の集約化・重点化</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 産科・産婦人科医師1人当たりの年間分娩件数が多い県北地域について、産科医療資源の集約化・重点化を図り、産科セミオープンシステムを活用し、産科のない地域には助産師外来を設置していきます。 <hr/>	<p>気仙沼産科セミオープンシステムを 気仙沼産科連携体制に名称変更</p> <p>仙南産科セミオープンシステムを含 めた連携体制を追記 妊産婦のメンタルヘルスケア連携体 制を追記</p> <p>医療計画と周産期医療体制整備計画 を一体化するため削除</p>
--	--	---

